土居隣保館便り

令和4年
10月号

発行:土居隣保館　〒799-0703 土居町藤原5-400-3 TEL/FAX 28−6356

10月 土居隣保館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
						1 木工教室 10:00〜
2	3	4 空手教室	5	6 ｽﾛｰｴｱﾛﾋﾞｯｸ 10:00〜	7	8
9	10 スポーツの日	11 空手教室	12	13	14	15
16	17	18 空手教室	19	20 ｽﾛｰｴｱﾛﾋﾞｯｸ 10:00〜	21	22
23	24	25 職業相談 10:00〜 空手教室	26	27 ｽﾛｰｴｱﾛﾋﾞｯｸ 10:00〜	28 悠遊クラブ 14:00〜	29
30	31					

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定が変更・中止となることがあります。

隣保館では、人権相談や職業相談を行っています

悩んでいることはありませんか？

隣保館は、いつでも人権に関わる悩みを相談できる窓口です。「職場でのハラスメント」、「職場や学校に行けない」など悩みがありましたら、何でも相談してください。

また、毎月25日（原則）は、ハローワークの巡回相談（職業相談）を行っています。巡回相談は、電話による予約制となっています。

土居隣保館は、社会福祉法に基づき地域住民のコミュニティーセンターとして、社会福祉の充実や増進を図るとともに、同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の解決を図るために設置された施設です。人とひとが交流を図り、誰もが住みよい地域づくりの拠点として、相談事業、各種講座や学習会、貸館事業など「人権と福祉のまちづくり」の実現に向けて、さまざまな隣保事業に取り組んでいます。

皆さんのご来館をお待ちしています！

先人の生き方に学ぶ

私たちの地域には岩崎伊三郎さん、江口いとさん、安藤正楽さんなど差別と闘った先人がいます。差別を許さず、人を愛し、人々の暮らしを守ったその生き方は、私たちに多くのことを教えてくれました。それぞれの先人の生きざまをシリーズで紹介していきます。

人間愛をもって　差別解消の母　江口いとさん①
～逆境に立ち向かう大きな愛～

1　つらく厳しい生活の中で

○　優しい家族に守られて

いとさんは、１９１２年に小さな漁村に生まれました。村の取りまとめ役を務め、信心深かった父親の影響を受けながら幼い頃を過ごしました。制度上の身分差別はなくなりましたが、当たり前のように差別が存在していた時代です。父親はいとさんが８歳の時に亡くなりましたが、優しい家族に守られて、あらゆるものへの優しさや感謝の気持ちを大切にしながら成長していきました。

○　夫の出征と別れ

いとさんは２０歳の時に同じ村の青年と結婚しました。そして一男一女をもうけ、夫と協力して生活していました。しかし、戦争が始まり、１９４３年に夫へ召集令状がきました。夫が戦場へ行った後、いとさんは２人の子どもを守るために一生懸命働きました。家には５反ほどの畑と船がありました。また、たくさんの網も残されていました。いとさんは生計を立てるために、知人に頼んで漁業を始めました。朝早く船を出し網を張り、次の朝に帰って来ます。暑い日も寒い日も弱音を吐くことなく毎日続け、夫の帰りを待ちました。やがて、終戦を迎えます。いとさんは夫の帰りを待ち続けました。しかし、１９４８年２月、夫の戦死の公報が伝えられました。

いとさんの短歌

> 待ちし日は働くかひもありつれど帰らぬ今は涙ばかりぞ

「茨を超えて」より

2　苦しい時代を生き抜く

○　病床に臥す

夫を亡くした悲しみに追い討ちをかけるように、台風で畑が流されました。その上頼りの母も病気でなくなりました。度重なる悲しみと仕事の苦労がたたって、いとさんは病床に臥してしまいました。今のように温かい福祉の手を差し伸べられることがなかった当時、子どもたちを育てるために、船も網も売ってお金に変えました。しかし、ついに何も売る物がなくなってしまいました。病気のいとさんが途方にくれていると、小学１年と２年の子どもが学校から帰った後、あめやお菓子を売り歩いていとさんの薬代をつくってくれました。

○　子を思う心が生きる力に

誰もが生きるのに精一杯だった時代。病気のいとさんの家を訪れる人も力を貸してくれる人もいませんでした。いとさんは、人の心の冷たさをしみじみと味わいました。しかし、この冷たい世の中に幼い２人の子どもたちを残すことはできない、何とかして生きなければと、いとさんは決心しました。生きようと決心したいとさんは、一歩ずつ歩くけいこを始め、１９５０年１０月に駄目だと言われていた病気が全快し、床を離れることができました。

いとさんの短歌

> われの手に残る二人の子宝ありいかに磨かんか夫みそなはせ

「茨を超えて」より

差別の厳しい時代、生きることすら難しかった時代を生き抜いてきた、いとさん。それは私たちが想像すらできない毎日だったと思います。しかし、いとさんは何度も何度も自分の力で立ち上がりました。自分の大切な周りの人を愛し、周りの人から愛されたことが根底にあるから、いとさんの強さと優しさがあるのだと思います。いとさんは、人を差別することの愚かさと、人としての生き方を私たちに教えてくれました。

続きは、１１月号「江口いとさん②」で紹介します。

主事　川上祐志